

会 議 録

会議の名称		平成２７年度第２回守谷市社会教育委員の会議		
開催日時		平成２７年１２月１１日（金） 開会：午後１時３０分　閉会：午後３時１０分		
開催場所		守谷中央図書館　集会室１		
事務局（担当課）		教育委員会　生涯学習課		
出席者	委　員	塚原議長，仁田副議長，堀込委員，鈴木委員，仁平委員，霜多委員，中山委員，小幡委員，西川委員　計　９名		
	市職員	後藤教育長，江幡課長，福島課長補佐　計　３名		
公開・非公開 の状況		☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部公開	傍聴者数	０人
公開不可の場合は その理由				
会 議 次 第		1　開　会 2　議長あいさつ 3　教育長あいさつ 4　内　容 （１）協議事項 ①提言案の最終確認について （２）報告事項 ②平成２８年度主な生涯学習関係事業について （３）その他 5　閉　会		
確　定　年　月　日		会　議　録　署　名		
平成２７年１２月２５日		議　長　塚　原　三千勝		

審 議 経 過

1 開 会

2 議長あいさつ

3 教育長あいさつ

4 内容

(1) 協議事項

①提言案の最終確認について

塚原議長： 本日欠席している委員には，出席委員で提言書を完成させることを了承いただいている。この会議をもって最終確認となるので，意見の集約に協力願いたい。

事務局： 9月の企画委員会で完成した素案を，10月中旬から11月中旬まで委員の皆さんに目をとおしていただき，意見を募集したところ，修正案が提示された。提案をいただいた鈴木委員から説明をお願いしたい。

鈴木委員： 「課題3 定期活動に関すること」の一部となるが，会合の開き方を見直すという点で，特に，一度の会合で多くの内容を協議できるようにするためには，会議開始時間から終了時間までを徹底して効率化を図ったほうが良いと考えた。

よくあることだが，話が長すぎて論点がわからなくなったり，会議の時間が延びているにも関わらず，まとまる方向に進まず，結局まとまらないうちに終わってしまうなど，何のために集まったのかわからなくなるケースがある。

塚原議長： 鈴木委員の修正案に対して意見はあるか。なければ，案のとおり修正して良いか。

委員全員： 賛成

事務局： もう1件，修正等とは別に意見をいただいている。

「課題5 地域や学校との連携に関すること」について，①地域の人材を調べるという提言は，団地に住み，地域の活動を活性化する上で最も重要なことと考える。②退職者が急速に増加している中で，その退職者がどのような特技を持っているか，近所に住んでいてもわからないし，持っている技能を地域のために活用する意思があるのかもわからない。守谷市は人材が豊富であり，今後，発掘が課題であるなどの意見があった。

また，「人材発掘のアンケート用紙の例文を掲載してはどうか。」との提案があったが，提言書に記載する内容は，委員から教育委員会に提言

するものなので、提言書上にアンケート用紙の例文は記載せず、内容を検討して別の機会に作成してはどうか。

塚原議長： 事務局から説明があったが、アンケート用紙を作成するにはもう少し時間が必要になるので、別の形で検討することにして良いか。

委員全員： 賛成

事務局： 企画委員会の際、提言書としてだけではなく、多くの方に読んでいただきたい内容なので、ハンドブックにしてはどうかという話があった。

霜多委員： 公民館の定期サークルに配付してはどうか。活動を継続するために必要な内容だと思う。

堀込委員： ハンドブックにするならば、提言書のような固いものではなく、読みたくなるような体裁にしたほうが良いだろう。

事務局： イラストを加えたり、委員の皆さんにコメントをいただいて「コラム」を掲載したりする方法もある。

仁平委員： 今後、老人クラブ連合会の名称を「シニアクラブ連合会」に改め、会員を増やしていく予定である。連合会にもサークルや社会教育団体と同じような課題があるため、配付してほしいと思う。

鈴木委員： 他の団体にも非常に役に立つ内容だと思う。

地域の人材の発掘に戻るが、これが実現すれば、地域が活性化する。地域の中にはいろいろな能力を持った人がいる。その力を何らかの形で地域に還元していただければ非常にありがたい。一度、力を発揮する機会を経験すれば、自分が関わったことでさらに地域に愛着が湧くだろう。

仁平委員： 今、自主防災組織を増やしている。ノウハウを持った人材も多い。防災の面でも活躍してほしい。

鈴木委員： もりや市民大学で熱心に勉強している方もたくさんいる。しかし、学ぶだけで終わってしまうのはどうか。活躍の場面が必要だと思う。

西川委員： 退職して地域に戻ったら、現役時代のことは聞かない。これが付き合い合ふときのルールになっている。

仁平委員： 親しくなるまでが大変で、親しくなってしまうえば話をする中で、その人の特技や地域で活躍する意思の有無も確認できるだろう。

霜多委員： ハンドブックの紙面上に、我々がコラムを書くというのは非常にいい。自分達のこれまでの活動を振り返ることができる。

事務局： 今後、年明けになると思うが、コラム作成をお願いする。5つの課題ごとに掲載できると良いと考えているので、協力をお願いしたい。

委員全員： 賛成

(2) 報告事項

①平成28年度主な生涯学習関係事業について

資料に沿って、補助金交付事業を含む主な事業（28事業）について説明。

塚原議長： 今の説明を聞いて、もう少し聞きたいことや意見があると思うが、どうか。

西川委員： 先日、新聞報道で市が施設を買い取ったとの記事を見たが、使用用途は決まっているのか。

事務局： まだ決まっていない。

仁平委員： 児童クラブは、冬休みや夏休みも6年生まで預かってもらえるのか。

事務局： 今年4月から全学年対象になった。保護者の就労等で、放課後留守になる家の子どもを児童クラブで預かり、それ以外の子どもも保護者に午後5時に迎えに来る形で「放課後子ども教室」に参加してもらえる。

仁田副議長： 先日、運営委員会で、最近は保護者から「子ども教室の時間内に習い事ができるようなプログラムを提供してほしい。」「塾のように勉強を教えてほしい。」など、開設目的とはかけ離れた要望が出ていると聞いた。親の意識が違ってきていると感じる。

事務局： 現在、運営は民間委託しているが、安全で安心して生活できる環境を提供し、ボランティアの方など、地域の大人や異世代交流を図れる場になるよう依頼している。現在、そこまでのプログラムを提供できる状況にない。

塚原議長： 家庭教育学級はどのような内容なのか聞きたい。

中山委員： 市内の保幼小中の保護者を対象に、年間で講座を8回、11月に講演会を行っている。講座開催時には、各園・各学校を巡回して参加者を募っている。参加状況を見ると、保育園・幼稚園の保護者が多い傾向にある。

塚原議長： 学級生が自主的に運営し、参加するものじゃないのか。

中山委員： 各学校にもよるが、ほとんど単独での学級がない。

堀込委員： 以前は、学校単位で小学校1年生の親を対象に学級生を募り、「家庭教育学級」を組織していた。入学当初からの親のつながりができて良かった。

仁田副議長： 放課後子どもプラン支援員の研修についてだが、研修後のレポート提出が思いのほか大変で、以前とはだいぶ変わってきたと聞いた。

中山委員： 支援員の質の向上が求められている。ただ研修に参加して終了ではない。県も年に何回か研修会を開催しているが、守谷市でも、運営委託先が独自で研修プログラムを組んでいる。

塚原議長： 成人式は、対象者が主体となって運営しており、良い取り組みだと思う。成人式後の取り組みとして、かつての青年学級のように学習できる組織や拠点はないか。

事務局： 成人式を迎える年代は現在も学生で、住所地を移動しているケースも多い。成人式典の運営協力員会議を８月から開始したが、全員そろうことが難しい状況にある。後続活動までは難しいと感じる。

仁田副議長： 商工会青年部や消防団など、青年期に活動している人達が、そのような学習活動についてどのように考えるか、意見を聴いてみてはどうか。

鈴木委員： 今はグローバル社会で、大学に進学する者も多い。勉強は各自でしている。

塚原議長： 個人ではなく、みんなで学ぶ機会があれば良いと思っている。

仁田副議長： 守谷を良くしようという話を若い人からしてほしい。

堀込委員： お祭りが一つのきっかけになって、若い人達の結束が固まる。普段それぞれが忙しい毎日を送っているが、祭りの準備から片付けのある一定期間は、最優先に時間を作って集まっているようだ。

塚原議長： 八坂祭礼は、市指定文化財指定の申請をしたと聞いている。次期の社会教育委員には文化財巡りをしてほしい。

仁田副議長： 文化財は、周知のために、中央公民館などで公開してほしい。

事務局： 次年度以降、検討したい。

塚原議長： メインとなる提言書の作成が終了した。特に、企画委員の皆さんにおいては度々集まっていたき、大変お疲れ様でした。

（３）その他

事務局： 本日の会議をもって、任期中の会議は終了となる。

今後、教育委員会に提言書の提出があるが、委員全員で提出するか、議長・副議長から提出するかいずれかになる。

委員全員：議長・副議長から提出することに賛同

５ 閉 会